

# **IATF 16949 内部監査|箇条7.2.3 内部監査員の力量**

**IATF 16949 audits | How do I: Audit internal audits - Auditor competency**

<https://www.youtube.com/watch?v=ompDHvAa9Qo&t=50s>

# 内部監査資料 Key Point

## 【内部監査で見つかった問題点】

- 1.内部監査員の区分と求められる力量に関して、明確な文書化されたプロセスが存在せず、資格をもつ内部監査員のリストも維持されていない。
- 2.監査員の力量評価に関して、顧客固有要求事項の理解やコアツール要求事項のカバレッジが不十分であり、監査員の力量の評価基準が明確にされていない。
- 3.製造工程監査員や製品監査員に対して、専門的な理解や知識を実証する機会や要件が欠けている。
- 4.力量の維持と改善に関して、年間最低回数の監査実施や内部変化や外部変化に基づく要求事項の知識の維持が十分に実証されていない。

## 【内部監査で見つかった問題点の改善策】

- 1.内部監査員の区分と求められる力量に関して、明確な文書化されたプロセスを策定し、資格をもつ内部監査員のリストを維持する。
- 2.監査員の力量評価に関して、顧客固有要求事項の理解やコアツール要求事項のカバレッジを適切に評価し、力量の評価基準を明確化する。
- 3.製造工程監査員や製品監査員に対して、専門的な理解や知識を実証するための要件や機会を導入する。
- 4.力量の維持と改善に関して、年間最低回数の監査実施や内部変化や外部変化に基づく要求事項の知識の維持を定期的の実証する手段を導入する。

## 【ISO19011の観点からの問題点】

内部監査のプロセスが十分に定義されておらず、ISO 19011のガイダンスに従った監査手法が組織全体で統一されていない。

## 【ISO19011の観点からの改善策】

内部監査員全員がISO 19011に従った監査プロセスを理解し、適切に適用できるようにするための教育訓練を提供すること。また、監査のプロセスと手法を明確に定義した文書化されたプロセスを作成すること。

IATF 16949:2016の条項7.2.3は、内部監査員の力量について述べています。その要求事項によれば、組織は次のことを実施しなければならないと規定しています。

1. 内部監査員が力量を持つことを確認するための文書化されたプロセスを確立すること。このプロセスでは、組織自身や顧客固有の要求事項が考慮されます。
2. 資格を持つ内部監査員のリストを維持すること。
3. 品質マネジメントシステム監査員は次の力量を示す必要があります：
  - a. 自動車産業のプロセスアプローチ、リスクに基づく考え方を含む監査に対する理解
  - b. 適用範囲に関して該当する顧客固有の要求事項の理解
  - c. 適用範囲に関して適用されるISO9001およびIATF16949の要求事項の理解
  - d. 適用範囲に関連するコアツール要求事項の理解
  - e. 監査計画、実施、報告、および監査結果の完了の仕方の理解
4. 製造工程監査員は、少なくとも、監査対象となる該当する製造工程における、工程リスク分析（PFMEAなど）とコントロールプランを含む専門的理解を示す必要があります。
5. 製品監査員は、少なくとも、製品の適合性を確認するための製品要求事項の理解、および該当する測定及び試験設備の使用に関する力量を示す必要があります。
6. 組織のスタッフが力量を獲得するための教育訓練を提供する場合、上記要求事項を満たすトレーナーの力量を示すための文書化した情報を保持すること。

7.内部監査員の力量の維持と改善は、以下の事項を通じて実証しなければならない。

- f. 組織が定める年間最低回数の監査の実施
- g. 内部変化（例えば新規製品、新規プロセス、新規顧客要求事項など）に対する応答性
- h. 適切な継続教育および訓練
- i. 監査パフォーマンスの定期的な評価

8.フィードバックとコーチングにより力量の維持と改善を実現すること。

以上の要求事項に従って、内部監査員の力量を評価することが求められます。具体的な評価方法は組織ごとに異なるかもしれませんが、上記要求事項を満たすためのプロセスを設定し、そのプロセスに従って評価を行うことが必要です。

## 箇条7.2.3 内部監査員の力量

- ☑組織は、組織によって及び／又は顧客固有要求事項によって規定された要求事項を考慮に入れて、内部監査員が力量をもつことを検証する**文書化されたプロセス**をもたなければならない。監査員の力量に関する追加の手引には、ISO19011を参照する。
- ☑組織は、資格をもつ内部監査員のリストを維持しなければならない。
- ☑品質マネジメントシステム監査員は、次の最低限の力量を実証できなければならない。
  - a. リスクに基づく考え方を含む、監査に対する自動車産業プロセスアプローチの理解
  - b. 該当する顧客固有要求事項の理解
  - c. 監査適用範囲に関して適用されるISO9001及びIATF16949要求事項の理解
  - d. 監査範囲に係る、該当するコアツール要求事項の理解
  - e. 計画、実施、報告及び監査所見の完了の仕方の理解

## 箇条7.2.3 内部監査員の力量

☑製造工程監査員は、最低限、監査対象となる該当する製造工程の、工程リスク分析（PFMEAのような）及びコントロールプランを含む、専門的理解を実証しなければならない。

☑製品監査員は、最低限、製品の適合性を検証するために、製品要求事項の理解、並びに該当する測定及び試験設備の使用において、力量を実証しなければならない。

☑力量を獲得するために組織の要員が教育訓練を提供する場合は、上記要求事項を備えたトレーナーの力量を実証するために**文書化した情報を保持**しなければならない。

☑内部監査員の力量における維持及び改善は、次の事項を通じて実証しなければならない。

- f. 組織が定める、年間最低回数の監査の実施
- g. 内部変化（例 工程技術、製品技術）及び外部変化（例 ISO9001、IATF16949、コアツール及び顧客固有要求事項）に基づく、該当する要求事項の知識の維持

## 箇条7.2.3 内部監査員の力量

### 1. 内部監査員の区分と求められる力量。

区分	力量
QMS監査員	a) ～ e) ➡各種要求事項に関する理解
製造工程監査員	PFMEA及びCPを含む製造業務の <b>経験</b>
製品監査員	図面及び仕様書、測定及び試験などの <b>経験</b>

### 2. 「経験」 ➡ 講習の受講ではなく、組織内での業務経験から得る。

### 3. 力量管理の明確化。

区分	力量	方法
QMS監査員	①ISO9001要求事項の理解・・・	①外部又は社内研修受講・・・
製造工程監査員	①製造部業務経験3年以上・・・	①実務経験・・・
製品監査員	①品質保証課及び・・・	①実務経験・・・

### 4. **力量の維持と改善**も重要。 ➡計画された監査における実務。



## 箇条7.2.3 内部監査員の力量

評価区分	評価項目		評価基準	監査区分			評価結果	特記事項
				QMS	製造工程	製品		
個人の資質及び業務経験	①倫理感／心の広さ／観察力／適応力／決断力／自立的 ②当社における業務経験度合い		上司が日常業務の観察により判断	●	●	●		
知識 監査 及び 必要な 技法	規格要求事項の理解		「内部監査員資格認定試験」により判定	●	●	●		
	顧客固有要求事項の理解			●	●	●		
	ISO19011の理解			●				
	コアツールの理解 （当社QMS該当部分）	A P Q P		●				
		P P A P		●				
		P F M E A		●	●			
		S P C		●	●			
		M S A		●	●	●		
	自動車産業プロセスアプローチの理解			●	●	●		
	自動車産業プロセスアプローチ監査手順の理解		教育時のロールプレイの観察により判断	●	●	●		
	製品に関する知識		上司が日常業務の観察及び「スキルマップ」により判断	●	●	●		
	P F M E A 及び C P を含む製造工程の専門的理解				●			
	製品要求事項の理解及び検査（測定・試験）方法と検査機器使用に関する力					●		
評価結果（合計）							0	
評価点（70点以上、且つ1点がないこと。）							0	



# 内部監査-登場人物



Confidential

ミツイ精密株式会社



**Paul : 進行**



**監査員**



**品質マネージャー**

# 内部監査-現場会話

- Paul** : このビデオでは、監査員が組織の内部監査員の適格性を確認するプロセスの有効な実装を監査しています
- Paul** : 監査員は品質マネージャーと共に監査を行っています
- Paul** : この組織は自動車供給チェーンのセカンドティアに位置しています
- Paul** : このビデオを見て、監査員がこのプロセスを効果的に監査しているか確認してみてください
- 監査員** : 内部監査員の適格性を確認するプロセスを説明していただけませんか？
- 品質マネージャー** : はい、我々は合計で五人の内部システム監査員と三人の製造プロセス監査員を抱えており、それらの経験と外部研修を組み合わせて使用しています
- 監査員** : どのようにして力量（能力）の要件を定義しますか？
- 品質マネージャー** : 我々はICSの標準を参照し、システムとプロセスの監査員について定義されているIATF 16949の7.2.3の力量要件を参照しています
- 監査員** : 記録を見ることはできますか？
- 品質マネージャー** : はい、もちろんです。私はオンラインで一つを見せます。我々はすべてのシステム監査員を、7.2.3にある項目をカバーする二日間のコースに送りました。三人のプロセス監査員は五日間のVDA 6.3コースに参加しました。その記録を見ることはできます
- 監査員** : システム監査員について、あなたはどのようにして監査を行う能力を確認しますか？
- 品質マネージャー** : 能力の確認はトレーニングの結果に基づいています。したがって、彼らがトレーニングを受ければ、我々は彼らが適任であるとみなしています。
- 監査員** : このトレーニングの一部として評価はありましたか？
- 品質マネージャー** : コースの評価がありました。候補者たちはトレーニング提供者にフィードバックを与えましたが、我々は、その後社内で更なる分析をすることはしていません
- 監査員** : これらの資料のいくつかを見ると、彼らが自動車コアツールについて何もカバーしていないようです

# 内部監査-現場会話

- 品質マネージャー** : いえ、二日間のコースだったので、監査に非常に焦点を絞っていました。コアツールについては、彼らが過去の経験や他のトレーニングコースから学んだ知識に頼っています
- 監査員** : でも、どのようにして彼らの力量を確認しますか？
- 品質マネージャー** : それは我々が経験に基づいて決定するものです。そして、それは彼らが何をしたのか、つまり、彼らが過去に受けたトレーニングや彼らが持つ職業の組み合わせに基づいています
- 監査員** : では、プロセスの証明書を見ることができますか？
- 品質マネージャー** : はい、再度彼らはVDA 6.3の五日間のコースに参加し、素晴らしい証明書と監査員カードをもらいました。それらは提示することができます
- 監査員** : はい、ありがとうございます。製品監査についてはどうですか？
- 品質マネージャー** : それはエンドラインの検査員によって行われますので、彼らの経験の記録を見せることができます
- 監査員** : ありがとうございます。彼らはIATFのトレーニングを受けましたか？
- 品質マネージャー** : いいえ、彼らは受けていません。我々の見解では、製品監査員は測定器具の使用法や図面の読み方を理解する必要がありますが、二日間の監査員トレーニングコースを受ける価値は見出せません
- 監査員** : IATF 6949では、製品監査員がIATFのトレーニングを受けることを要求していますので、これは不適合として取り上げざるを得ません
- 品質マネージャー** : それは知りませんでした、メモを取ります
- 監査員** : はい、わかりました

# 内部監査-現場会話（まとめ）

- Paul : このケースでは、組織はシステム内部監査員を外部トレーニングに送ったものの、トレーニング後に監査を行う能力を確認するプロセスがありませんでした
- Paul : また、内部監査員が自動車のコアツールの監査に適任であるという証拠もありませんでした
- Paul : 製造プロセスの監査員については、内部監査員がVDA 6.3に適合しているという証拠が見つかりました。
- Paul : 監査員は、内部監査員の資格に関連する顧客の特定の要件を見つけるためにオーディットトレイルをたどるべきでした※1
- Paul : 製品監査員については、監査員が何らかのトレーニングを受ける必要はありませんが、監査員が適任であるという証拠が必要です。
- Paul : このIATF内部監査員の力量の要件は、システム、プロセス、製品の内部監査員に適用されます。
- Paul : 主な学習点をまとめましょう
- Paul : 内部監査員の資格要件は、IATF 16949の7.2.3で明確に定義されています。これは、システム、プロセス、製品の監査員の基準を定義しています
- Paul : IATF監査の際、監査員は内部監査員がトレーニング、教育、または経験に基づいて適任であるという証拠を探すべきです
- Paul : 資格のある監査員の証明は、彼らが有効な監査を行うことができることです
- Paul : 内部監査は、IATF 16949のサードパーティ監査のそれぞれでレビューされるべきものの一つです

## 主要な学習ポイント

内部監査員の資格要件はIATF16949の7.2.3に定義されています。これはシステム、プロセス、製品の監査の基準を定義します。IATF監査の際、監査員は内部監査員がトレーニング、教育、または経験に基づいて適任である証拠を探すべきです。資格のある監査員の証明は、彼らが有効な監査を行うことができることです。内部監査は、IATF 16949のサードパーティ監査のそれぞれでレビューされるべきものの一つです。

※1 「オーディットトレイルをたどる」という表現は、内部監査員が特定の要件や規制に関連する情報や証拠を見つけるために、一連の手順や文書を追跡することを指します。具体的には、内部監査員は顧客の特定の要件に関連する情報や証拠を特定するために、以下の手順を踏むべきでした。

- 1.顧客要件の特定: 監査員は顧客要件や規制を把握し、それらがどのように組織のプロセスや製品に関連するかを理解する必要があります。
- 2.トレーニングや文書の確認: 監査員は、トレーニングコースや文書（契約書、要件仕様書など）に記載されている顧客要件に関連する情報を確認します。
- 3.プロセスの追跡: 監査員は、組織内のプロセスや手順を追跡し、顧客要件が実際にどのように実装されているかを確認します。
- 4.証拠の収集: 監査員は、実際の活動やレポート、記録などの証拠を収集し、それが顧客要件を満たしているかどうかを評価します。
- 5.不一致の特定: 監査員は、顧客要件に対する組織の実装が不十分である場合や不一致がある場合には、それを特定し、不適合事項として報告する必要があります。

つまり、監査員は顧客の要件に関連する情報や証拠を特定し、それを追跡して評価することによって、組織が要件を満たしているかどうかを確認するためのトレイルをたどるべきでした。